



福井の名所探訪⑮

刈込池 (大野市)

打波川の上流、願教寺山のふもとにある刈込池はその昔、泰澄大師が白山千蛇ヶ池に棲む大蛇を分けて刈り込み、封じ込めたという伝説で知られています。周囲の樹木や山々の姿を水面に映す神秘的なこの池は、流れ込む小川があるのに、流れ出る川がひとつもないという不思議な湖でもあるのです。

理念

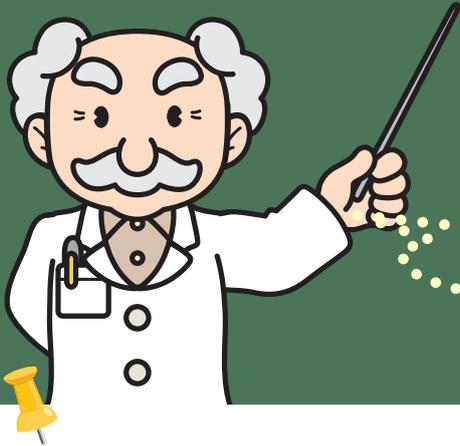
高齢期の方々の尊厳を踏まえ、こころ温まる医療の提供と地域から愛される病院を目指します。

基本方針

- ① 認知症疾患の特性を踏まえ、個性の高い医療と温かみのある療養の提供
- ② 認知症に関する介護教育と啓発活動の充実
- ③ 地域の医療・保健・福祉との一層の連携と協働
- ④ 働きがいのある職場づくり
- ⑤ 職員一人ひとりが自覚し、健全な病院運営への努力

患者様の権利に関する宣言

- ① 最善の医療を平等に受ける権利
- ② 選択および自己決定する権利
- ③ 意識のない患者様および法的能力のない患者様の権利
- ④ 患者様の意思に反する処置・治療
- ⑤ 十分な説明を受ける権利
- ⑥ 情報開示を求める権利
- ⑦ 個人情報およびプライバシーを保護される権利
- ⑧ 健康教育を受ける権利
- ⑨ 個人の尊厳を守る権利
- ⑩ 宗教的支援を受ける権利
- ⑪ 退院後も治療や福祉を受ける権利
- ⑫ より良い環境で治療を受ける権利
- ⑬ 通信・面会を自由に行う権利
- ⑭ 退院や処遇改善の請求を行う権利



すこやか講座

認知症カフェをご存じですか？

「認知症カフェ」という言葉は、厚生労働省の公表資料にも登場しています。

平成24年6月18日に公表された「今後の認知症施策の方向性について」の中で、地域での日常生活・家族の支援強化の対応方策の1つとして、

「認知症カフェ」(認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、集う場)の普及など内容の充実等を図る

と記載されています。

そして、本年度からスタートした「認知症施策推進5か年計画(オレンジプラン)」で、認知症カフェの普及などにより、認知症の人やその家族等に対する支援を推進。予算措置が取られています。

「本人の意見が尊重され、住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会」を目指しているのです。

認知症カフェの普及や確立によって、家族や本人の不安を少しでも和らげることができれば、そして、くつろげる場所になればいいですね。





認知症カフェ **心** ここあ cocoa **愛**



福井県で初めての認知症カフェ「**心** ここあ **愛**」が、9月7日（土）にオープンしました。もの忘れに不安のある方、軽度認知症の方、その家族の方が集えるカフェです。「**心** ここあ **愛**」では楽しい雰囲気の中で、もの忘れに不安を感じている方々が気軽にお話ができ、活動できる場を提供していきたいと思っています。



9月7日の開所式でのテープカット「地域に育ててもらいたい…」そんな気持ちを含めて、地域の公民館長さん、自治会長さん、地域包括支援センターの方に参加していただきました。



囲碁を楽しんでいます。実は職員が指導されながらなんですよ…。

場 所：福井市湊3丁目1010
 ループヤシロビル
利用料金：飲み物代 100円（おかわり自由）
開設日時：毎週土曜日 午前10時～午後3時



毎週、10名以上の方が利用されています。

私たちが笑顔でお待ちしてま〜す♥

利用に関するご相談は、当病院地域連携室までお問い合わせください。 0776-98-2700

家族は今…

長い間、ご苦労様の気持ちでいっぱいです

M.T

2年前、姉の入院の付添いで母についてもらおうと、病院から「病室を間違えたり何度も同じことを尋ねたり、徘徊をして他の患者さんに迷惑なので」と連絡があり、迎えに行くと、肩を落として座っていました。母は、数十年、姉の闘病生活で付添いは慣れていたので驚きました。

これを機に母を総合病院に連れて行き、検査を受けると、アルツハイマー型認知症と診断され、私たちは大変ショックを受けました。それから一年近くは、アリセプトの内服とデイサービスを受けながらの日常生活を送っていましたが、症状はエスカレートしていき、デイサービスも回数を増やしていきました。そんな中、漢方薬が良く効くと聞き、いろいろ調べた結果、すこやかシルバー病院に予約を入れると、当時数ヶ月先まで予約が取れないと言われ、認知症患者さんの多さに再び驚愕し、先の見えない不安を抱えながら家族の協力の下、受診日を迎えました。この時ほど一日一日が長く感じられた事はありませんでした。

院長先生には3ヶ月ぐらい外来でお世話になっていましたが、症状は悪化するばかりで、家族も限界を迎えていた頃、先生から入院を勧められ姉と手を取り合って喜びました。今では母の眉間のシワも取れ、穏やかな表情を取りもどしています。これも偏に、院長先生はじめ、職員の皆様のお陰と心から感謝しています。

以前から思うと、こんなに穏やかな顔になるとは、とても想像が付きませんでした。面会に行くと「私も一緒に帰る」と言っては時々困らせることもあり、後ろ髪をひかれる思いで帰ってきます。実直で、人が嫌がることを率先して仕事をしてきた母。孫が熱を出すとすぐに飛んできてくれた母には、恩を忘れることなく、これからも一方通行でしかありませんが、親孝行をしていくつもりです。

今は、一回りも二回りも小さくなった母の体を、面会の度に「長い間、ご苦労様」といつてさすっています。母の笑顔を見ると私にも余裕ができ、「これも母の運命」と思えるようになりました。これから先、どれだけ生きられるか分かりませんが、苦しまず、少しでも人に迷惑をかけない余生を・・・と願ってやみません。

院長先生、職員の皆様、今後もよろしくお願いいたします。最後に家族の一人一人にお礼を言いたいです。

「ありがとうね」



デイケアだより

7月 ミニ縁日

デイケア室内にて、縁日風の調理を行いました。三色手まり寿司、味噌汁、たこ焼き、フランクフルトなどを、利用者さんとスタッフと一緒に作りました。

男性利用者さんには、たこ焼きを丸く焼く作業をお願いしたのですが、思うように丸くならず、悪戦苦闘しておられました。

女性利用者さんは、さすが手慣れておられ、味付けのご意見もいただきました。

最後はどれも美味しくお腹に収まりました！！



丸くするのも、
難しいもんやの～

きゅうり

鮭フレーク



ラップで包んで、
三色手まり寿司にしました！

いりたまご

8月 コカリナ演奏会

8月19日（月）にボランティアの方々をお招きし、コカリナ演奏会を開催しました。

福井市清水地区からお越しいただいた『コカリナ・アンサンブルひがし』の方々に、唱歌を中心に演奏していただきました。懐かしい選曲で、利用者さんも口ずさんでくださる方が多く一体感があり、アンコールをお願いするほど、とても盛り上がりました。

コカリナの綺麗で優しい音色を聴きながら、心安らぐひとときを過ごすことができました。



曲 目

*バラが咲いた *海

*ふじの山 *とんび

*ふるさと *浜辺の歌 など

★コカリナとは・・・

元は「桜の木でできたオカリナ」と呼ばれ、東欧ハンガリーの露店で売られていた笛。現在では日本国中、数万人の愛好家がいると思われる。

福井県内では2005年の福井豪雨で決壊した足羽川堤防の改修工事で伐採された桜の木で作られたコカリナを、2009年の全国植樹祭の際、地元の子供達と一般公募で集まった大人計70名で演奏。当日は、皇后陛下もコカリナ隊と同じ足羽川の桜の木のコカリナを身に着けてご列席されたことで注目された。



はじめまして!!



《新人紹介》



精神保健福祉士
柳本 殊江

はじめまして。4月より地域連携室に配属となりました、柳本殊江と申します。現在、精神保健福祉士として外来受診のご相談や、福祉制度のご説明、入退院の調整に関わらせて頂いています。前職では地域で、精神疾患をお持ちの方の相談援助や、生活・就労支援に携わってきました。医療機関での業務は初めてで、他機関・他職種の方との連携など、勉強の毎日です。現在、認知症の患者様とお話する中で、繊細に表現される感情に触れ、人間の深さ、尊さを感じると共に、自身の未熟さを感じ、人生の先輩方から学んでいることの大きさを実感しています。

もの忘れに不安や葛藤を感じている本人様や、今後の生活や本人様との関わりに悩んでおられる家族様のお気持ちを汲み取りながら、お手伝いができればと考えています。

また、配属されてから、本人様・家族様と関わらせて頂く中で、人と人とのつながりの大切さや、つながりを作り、それを守っていくことの大変さを感じています。本人様、家族様のこれまで経験してこられた歴史、生活の価値観を大切にしながら、認知症があっても本人様らしい生活を組み立てることができるよう、家族様・関係機関の方々と一緒に探っていきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

《 認知症看護 認定看護師 紹介 》



副看護師長
和田 敏道

私は、すこやかシルバー病院に勤務して10年以上になります。

平成24年度に認知症看護認定看護師のカリキュラムに参加し平成25年7月に認知症看護認定看護師と認定されました。

認知症とは、「一度正常に達した認知機能が後天的な脳の障害によって持続的に低下し、日常生活や社会生活に支障をきたすようになった状態」を言います。認知症の方の日常生活や社会生活をサポートし、生活を送りやすくなるために質の高い看護を実践し、多職種に指導、相談を行っていくことが、認知症看護認定看護師の役割だと考えています。まだ、認知症看護認定看護師としては駆け出しですので、皆さんの協力をいただきながら、認知症の方の持っている力を引き出して、質の高い看護の実践を繰り返していくことを目標にしたいと考えています。

最後に、身体の不調や薬剤での認知機能の低下やせん妄を起こしておられる高齢者の方が多いと思います。私は、この方たちの「現象」だけを見るのではなく、身体機能のアセスメントも行い、この「現象」が何によって起こっているのかを常に考えながら実践し、認知症の方の味方でありたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。



認知症啓発活動



専門職研修 「高齢者の世界を体験しよう」

平成25年10月4日、専門職研修『高齢者の世界を体験しよう』が開催されました。
研修では講義、高齢者擬似体験を行いました。研修に参加した方のアンケートでは、「高齢者体験で学んだ内容を仕事に活かしたい」という感想が多く寄せられました。



講義「高齢者の特徴と合併症」の様子



講師の認知症看護認定看護師 和田博之

専門職研修 「高齢者への食事援助」

平成25年9月13日に専門職研修『高齢者への食事援助』が開催されました。
研修では講義、グループワークを行いました。研修に参加した方のアンケートでは、「今後のケアの参考にしたい、学んだ内容を取り入れていきたい」という感想が多く寄せられました。



講師の摂食・嚥下障害看護認定看護師 端先生（左）と
歯科衛生士 早石先生（右）



口腔ケア用品の紹介

